

気候変動にともなう防災・減災を考える会(第2回)

(千代川流域圏会議・分科会)

日時：平成22年10月27日(水)

10:00～12:00

場所：鳥取河川国道事務所1階会議室

議 事 次 第

1. 開 会
2. 委員紹介
 新委員紹介
3. 議 事
 - ・ 前回会議の要旨
 - ・ 温暖化による水害リスクの変化について
 - ・ 水災害意識アンケート調査結果の分析
 - ・ 適応策(ソフト的な取り組み)について
 - ・ 今後の「気候変動にともなう防災・減災を考える会」
 の進め方
4. 意見交換
5. 閉 会

気候変動にともなう防災・減災を考える会 (千代川流域圏会議・分科会) 規約

(名称)

第1条 本会の名称は、気候変動にともなう防災・減災を考える会(千代川流域圏会議・分科会)(以下、「分科会」と称する。

(目的及び設置)

第2条 本会は、千代川沿川住民の水災害における自主防災意識(自助・共助)の向上を図り、官民一体となって「犠牲者ゼロ」に向けた取り組みを推進する機関として、千代川流域圏会議 規約 第11条に則り設置をする。

(組織等)

第3条 分科会の委員は、国土交通省鳥取河川国道事務所長が委嘱する。
2. 分科会は別表で掲げる委員で構成する。
3. 委員の任期は、原則として平成23年3月31日とするが、継続が必要な場合は再委嘱を行う。

(分科会)

第4条 分科会は委員長を置く。委員長は委員の互選によってこれを定める。
2. 委員長は、会務を統括する。
3. 委員長に事故のあるときは、当該分科会に属する委員のうちから委員長が指名するものが、委員長の職務を代行する。
4. オブザーバーとして千代川流域圏会議会長を置き、必要に応じて招集する。

(会議の招集)

第5条 分科会は、委員長が事務局等と相談し必要なときに招集する。
2. 分科会は、委員の半分以上の出席をもって成立する。
3. 分科会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(事務局)

第6条 分科会の事務局は、国土交通省鳥取河川国道事務所に置く。

(雑則)

第7条 この規程に定めるものの他、必要な事項は分科会で諮って定める。

(付則)

この規約は平成22年7月28日から施行する。

気候変動にともなう防災・減災を考える会 委員名簿
(千代川流域圏会議・分科会)

別紙

氏名	役職等	備考
ひのきだに おさむ 檜谷 治	鳥取大学 工学部 教授	
どい こうさく 土井康作	鳥取大学 地域学部 教授	
たになが まもる 谷永 守	鳥取地方気象台 防災業務課長	
たけもり たつお 竹森 達夫	鳥取県 県土整備部 河川課長	
たかはし とおる 高橋 徹	鳥取市 防災調整監 危機管理課長	
おだ かずとし 尾田 一壽	日本赤十字社 鳥取県支部 事務局長	
にしむら いくお 西村 育雄	鳥取市消防団 団長	
たけだ やすあき 武田 恭明	鳥取市自主防災会連合会 会長	
やまだ たてお 山田 建雄	鳥取市自主防災会連合会 富桑地区評議員	
やまね ようじ 山根 洋治	鳥取市自主防災会連合会 明德地区評議員	
まえだ まこと 前田 誠	鳥取市自主防災会連合会 大正地区評議員	
うえはし のぼる 上橋 昇	鳥取河川国道事務所(河川)副所長	
こばやし みつお 小林 光男	郵便局株式会社 八頭郵便局 局長	第2回会議より
みちうえ まさのり 道上 正規	(財)とっとり地域連携・総合研究センター理事長	千代川流域圏会議 会長 オブザーバー

第1回 気候変動にともなう防災・減災を考える会 要旨

日 時：平成 22 年 7 月 28 日 13:30～15:30

場 所：鳥取河川国道事務所 1 階会議室

参加者：別紙参照、随行者、事務局含め約 30 名

本会趣旨

・近年、全国的に大規模な水災害が頻繁に発生する中で、千代川流域においても、全国的な傾向と同様に、温暖化に伴う気候変動によると考えられる集中的な降雨、潮位の上昇傾向等が見られ、今後も流域に対する水災害リスクが上昇していくことが考えられている。

こういった背景を踏まえ、気候変動にともなう水災害リスクに対する適応策(ソフト的な取り組み)について、学識経験者、地元関係者、及び関係行政機関等で考えていくことを目的として本会を設立。

今後この会で、千代川沿川住民の水災害における自主防災意識(自助・共助)の向上を図り、官民一体となって「犠牲者ゼロ」に向けた取り組みを推進していく。

第1回会議 議事概要

- ・本会の設立趣旨、規約の確認、委員長の選定。
- ・近年の水害について、千代川流域の特徴と課題、気候変動の現状
- ・今後の本会の進め方、水害意識アンケートの実施について

主なご意見

(今後の分科会の進め方等に関して)

- ・住民に浸水の実感を与えられるように、配慮してはどうか。
 - ・昔、土堤はなかった。今一番心配なのは、大きな土堤ができており、堤防を越えることはないと思うが、壊れたら 5m の浸水が予想されている。どのくらいの雨が降れば土堤を越えるのか知りたい。
 - ・1/100 規模の外力では住民が実感できない、1/50 規模程度の外力で浸水図を作ってはどうか。
- 一般の方に水害、浸水等をより実感してもらえそうな見せ方の工夫及び情報提供が必要**

(水害意識アンケートについて)

- ・質問が多い。もう少し簡単に、わかりやすくできないか。これだけ質問が多いとなかなか回答してもらえない。
- ・地球温暖化により気候変動が激化しているのか明白ではないので、「問4」は問題の出し方にもう少し配慮する必要がある。
- ・市から配布されたハザードマップでも自分の所しか見ない。アンケートも、もっと誰でも簡単にできるようなものがない。
- ・質問は全部で 20 なのでボリュームがあるように見えるが、これぐらいは必要なのではないか。
- ・回答の選択肢が多い。もう少し、絞ってはどうか。

今回の意見を踏まえ、アンケートを修正(質問数、選択肢の減、記載方法の工夫)した上で実施することにした。

以上